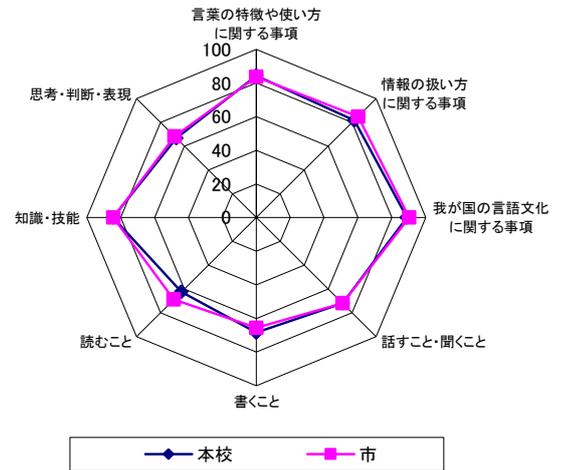


宇都宮市立古里中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	84.3	83.6	80.3
	情報の扱い方に関する事項	81.8	85.0	78.9
	我が国の言語文化に関する事項	88.9	90.2	84.2
	話すこと・聞くこと	72.1	72.1	67.8
	書くこと	68.4	65.5	51.8
	読むこと	62.5	68.9	57.8
観点別	知識・技能	84.5	84.4	80.5
	思考・判断・表現	66.7	68.2	57.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



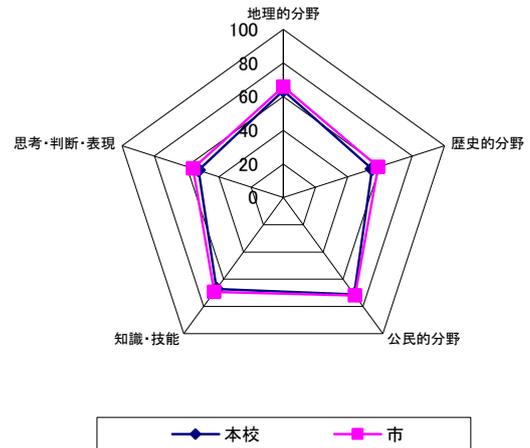
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>正答率が、市の平均より0.7ポイント上回っている。</p> <p>○漢字の読み書きは、特に「小学校で学習した漢字を正しく書いている。」という3問全て市の平均を上回っている。「故事成語」の問題も3.6ポイント市の平均よりも上回った。</p> <p>●「類義語について理科する。」問題が、3.3ポイント市の平均より下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・漢字の読み書きの学習は、小まめに行うことで、知識の定着を図ることができている。今後も継続して行っていく。</p> <p>・文法・語句に関する事項「類義語」「故事成語」等は、繰り返し単体で学習していくことも重要だが、説明文や文学的文章の授業の時に学習内容に関連させて提示していくことで定着を図るよう指導する。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>正答率が、市の平均より3.2ポイント下回っている。</p> <p>○情報の扱い方に関する事項の問題は、この一題であった。その内容としては、書き表し方を説明した文として、最も適切なものを選ぶ問題であり本校は81.8ポイントであった。</p> <p>●文章や映像や図など多様な情報の理解が求められる。特に文章を正しく理解する訓練が必須で、細部にわたって理解しようとする耐性が弱い。</p>	<p>・与えられた情報を正確に理解するには、分析力や観察力を高める必要がある。安易に見たつもり、聞いたつもりで、情報を捉えてしまうと、判断力も身に付かない。特に説明文の授業中に論証を行わせることが大切で、根拠を明確にして表現する態度を育成するようにする。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>正答率が、市の平均より1.3ポイント下回っている。</p> <p>○我が国の言語文化に関する事項の問題は、この一題で、現代語を手掛かりに古典を読む内容であり、本校は88.9ポイントであった。</p> <p>●古典の文章「十訓抄」の内容を問う問題でもあり、古典の読解に苦手意識を持つ生徒が若干いる。</p>	<p>・古典の存在意義を理解しないと主体的に親しもうとはしないので、まずは、古典の魅力を伝えることが肝要である。それには実生活の中で受け継がれてきている文化や生活様式に視点をあてて実感させることが重要である。また現代語との比較を行うことで、古典に親しませるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>正答率が、市の平均と同じである。</p> <p>○「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している」事項の問題は、市の正答率より4.8ポイント上回っている。</p> <p>●「話の展開を予測しながら聞いている」事項の問題と「自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話している」事項の問題は、正答率が市平均を下回っている。</p>	<p>・聞く力を身に付ける必要がある。相手意識を持って話し合い活動に臨むことが重要で、論証の学習内容の時に、意識しながら聞く活動を行わせるようにする。</p> <p>・論理の展開を考えて話すことができるようするには、やはり根拠を明らかにして、その根拠の妥当性を検討するような習性を身に付けるように指導する。</p>
書くこと	<p>正答率が、市の平均より2.9ポイント上回っている。</p> <p>○「目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしている。」「文章の構成を工夫している」2つの問題の正答率が市平均を上回っている。</p> <p>●「自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している」問題の正答率が市平均を下回っている。</p>	<p>・書きながら思考すること、メモを取りながら聞くこと、それらの留意点で書く学習活動を行わせる。</p> <p>・作文の指導では、モデルや型を与えて、それに当てはめて書くよう指示し、書くことの苦手意識を取り除くようにする。</p>
読むこと	<p>全ての設問が市平均を下回っている。</p> <p>○説明的文章の内容を読み取る問題の方が、市の正答率の平均に近い。</p> <p>●「物語の展開の仕方を捉えている」問題では、市の正答率の平均より、11.3ポイント下回っている。</p>	<p>・読解力の向上は課題である。文章の表現の仕方を評価しながら読むこと、文章の構成や論理の展開について評価しながら読むこと、等を身に付けるためにも、比較・批評を行わねばならない発問を授業の展開を工夫して行うことが重要である。</p> <p>・主体的な読解を行うためにも、論証の学習の充実を図っていくことが必要である。</p>

宇都宮市立古里中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	63.6	66.0	57.8
	歴史的分野	55.1	58.9	51.4
	公民的分野	71.2	72.0	72.2
観点別	知識・技能	67.1	69.3	62.9
	思考・判断・表現	52.6	56.0	49.1



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

★指導の工夫と改善

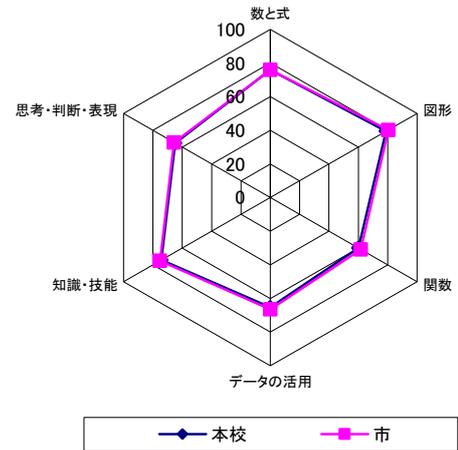
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○日本の地域的特色では、市の平均を上回った。交通網と貿易の関係など、自分たちの生活に身近なことに対しては理解が深い傾向がある。</p> <p>●ほとんどの問題で、市の平均を下回っている。特に、日本の気候の特色に関する問題では市の平均を10.6%も下回っている。自分が住んでいない地域への関心が低く、このような結果につながったと考えられる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>○複数の主題図やグラフ、統計資料などを活用して位置や分布、推移などの情報を読み取り、その結果をまとめる学習活動を授業で重点的に取り入れる。</p> <p>●多様な意見を尊重し、多面的・多角的な視点から社会的事象に気づかせるように、グループ活動や話し合い活動を積極的に導入する。その際、一人一台端末を積極的に利用する。</p>
歴史的分野	<p>○江戸時代に関する問題が市の平均を上回った。特に対外関係についての問題は、7.3%も市の平均を上回った。外国との関係に対して、とてもよく理解していることがわかる。</p> <p>●古代の日本(古墳時代まで)に関する問題が市の平均を下回った。特に、資料からの読み取り問題に対して、資料を比較し考える問題に課題が見られる。</p>	<p>○各時代の特徴を理解し、時代ごとの共通点や相違点について比較・検討ができるように、単元や分野全体を見通した学習指導を実施する。</p> <p>●多様な資料をもとに当時の社会における人々の生活の様子や歴史的事象の因果関係を読み取ることができるように、資料を取り扱う授業を積極的に取り入れる。</p> <p>○古代や中世、近世の政治の特色を比較・検討し、類似点や相違点に気付かせるような学習課題を設定した授業を実施する。</p>
公民的分野	<p>○人権の尊重と日本国憲法に関する問題で、市の平均を大きく上回った。特に、新しい人権に関する問題では、市の平均を10%上回っている。自分の生活する社会に関しての現状についてよく理解している。</p> <p>●公共の福祉に関する問題や、物事の採決の仕方に関する問題が市の平均を下回った。人権と人権の対立の際にどちらが優先されるかの理解が低い傾向がある。</p>	<p>○対立と合意、効率と公正などの判断基準を考察するために生徒の身近にある現代社会の事例を題材に取り上げる学習活動を積極的に導入する。その際、グループ活動や話し合い活動を積極的に取り入れ、思考の深まりを促すような授業を展開する。</p> <p>●時事問題を多く取り上げるなど、政治の仕組みや日本国憲法の特色について理解が深められるような学習活動を工夫する。</p>

宇都宮市立古里中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	75.9	76.0	69.0
	図形	78.9	80.5	67.7
	関数	60.0	61.6	55.0
	データの活用	65.3	66.5	56.4
観点別	知識・技能	74.3	75.1	69.4
	思考・判断・表現	64.9	65.6	47.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

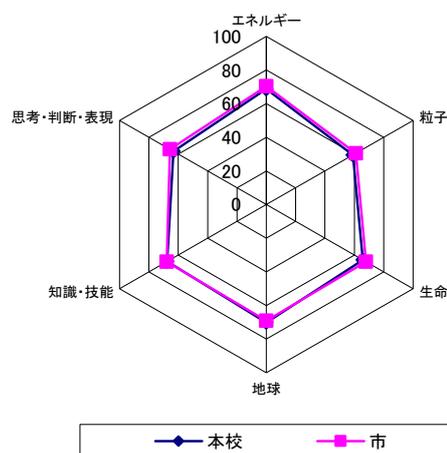
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>数と式の領域全体で見ると、市の平均とほとんど差はない。</p> <p>○方程式の内容については、市の平均を上回る正答率になっている。</p> <p>●乗法公式を使った簡単な展開の正答率は高いが、乗法公式を利用して式を簡単にする問題の正答率が低くなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算を繰り返し練習させて、着実に定着させる。 一次方程式や連立方程式は比較的得意であるので、二次方程式などの方程式の解き方を再確認させる。 文章題については、問題を読み取り、立式までの過程を繰り返し練習させる。
図形	<p>図形の領域全体で見ると、市の平均を少し下回っている。</p> <p>○合同条件を理解し、与えられた事柄から、正しい三角形の合同条件を判断することができたり、図形のなかで大きさが等しい角を見つけたりすることができている。</p> <p>●おうぎ形の面積や、対称移動で重ねることができる図形の対応する点を判断する問題の正答率が、市の平均を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 移動やおうぎ形の計算といった内容は、1年生での学習時以降あまり出てこないもので、2年、3年の図形の単元の授業のときに関連付けながら復習をする。 証明などの根拠を示しながら文章にする力を身につけさせるために、授業中の間でも、「なぜ」といった根拠を説明させる場面を多く取り入れるようにする。
関数	<p>関数の領域全体で見ると、市の平均を少し下回っている。</p> <p>○1次関数の増加量の関係を理解し、正答率が高い傾向にある。</p> <p>●比例における、変数の値の変化について正しい説明を選ぶことができている生徒が少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 関数は特に苦手意識を持つ生徒が多い。比例・反比例、1次関数、2乗に比例する関数について基本的な内容をていねいに復習し、定着を図る。関数の問題を解くときには、変数や変化の割合がその問題において何を示しているのかにも注目するように指導していく。
データの活用	<p>データの活用の領域全体で見ると、市の平均を少し下回っている。</p> <p>○事柄が起こる確率を求める問題の正答率が高い傾向にある。</p> <p>●箱ひげ図についての理解が不十分であり、図から根拠を読み取り説明する問題の正答率が低い傾向にある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平均値などの代表値、相対度数、四分位数、四分位範囲、箱ひげ図などの用語の意味や基礎的な問題の解き方を確認させる。 資料を活用し、考察して説明する力を身に付けさせるために、授業中での話し合い活動を通して、考える力や説明する力を身につけていきたい。また、データを読み取る練習も行っていく。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	68.8	70.3	59.4
	粒子	59.0	61.1	56.4
	生命	65.8	67.9	62.7
	地球	70.2	69.1	65.6
観点別	知識・技能	67.6	67.9	63.8
	思考・判断・表現	63.3	65.7	57.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

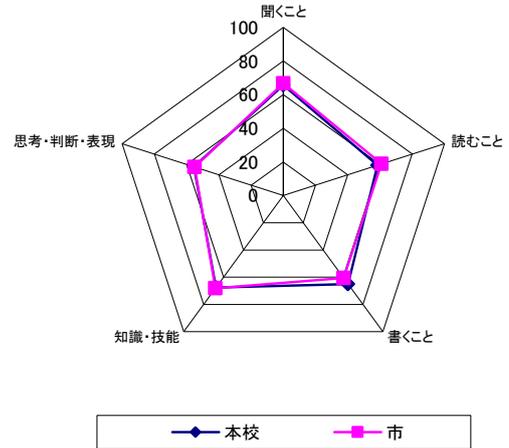
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○「力学的エネルギー保存」に関する設問で、市の正答率よりも10.3%、全国の正答率よりも16.3%上回っている。 ●エネルギー分野全体の正答率が、市の正答率よりも3.7%下回っている。設問別の正答率を見ても、ほとんどが市・全国の正答率を下回っている。	・昨年度に引き続き、実験時間を十分に確保し、現象を見て実感させる授業づくりを意識していく。 ・エネルギー分野では、作図をしたり計算をしたりする問題があるので、見たり調べたりした現象や数値と作図や計算の結果が一致するよう、問題演習を多く取り入れながら指導していく。 ・関連のある現象や事物を例示することで、身近なものとして捉えられるよう指導を工夫していく。
粒子	○「銅と酸化銅」に関する設問で、理由の説明では3.0%、質量の関係では4.4%市の正答率よりも上回っている。 ●粒子分野全体の正答率が、市の正答率よりも2.1%下回っている。「塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えていったときの、水素イオンの数の変化を指摘できる。」で、市の正答率よりも10.1%下回っている。	・粒子領域は、実験によって変化が見て分かるものが多いため、実験を有効に取り入れるとともに、考察する時間を確保して思考力や判断力を身に付けていけるようにする。 ・物質の成り立ちが理解できるよう、原子や分子、イオンのモデルを使って考える時間をつくり、1年生から3年生までの学習のつながりを意識した授業や指導をしていく。
生命	○動物の分類に関する設問では、全ての設問において市・全国の正答率を上回っている。 ●生命分野全体の正答率が、市の正答率よりも2.1%下回っている。特に「孫の代の遺伝子の組み合わせ」に関する設問では、市の正答率を14.5%下回っている。	・生命領域では知識の習得が主な学習活動になりがちである。知識を得るだけでなく、共通点や相違点に気付かせたり、それらをもとに自分で分類したりする活動を取り入れていく。 ・この分野で習得する知識の量はとても多いので、しっかりと整理できるように、問題演習や自分でまとめを行う時間などを確保していく。
地球	○地球分野全体の正答率が、市の正答率よりも0.9%上回っている。特に気象の観測に関する設問では、全ての設問において市・全国の正答率を上回っている。 ●「震度の大きさと震源との距離」に関する設問で、市の正答率よりも9.3%下回っている。	・地球領域に関する学習は、スケールの大きな内容が多く、授業で再現することが難しい現象が多い。そこで、映像資料やイメージ動画などを有効活用し、実感を伴った理解が得られるような授業展開を工夫していく。 ・天気や地震などに関する学習では、日常で体験していることの原理を学ぶので、学習時期に関わらず普段から関心を持って生活できるような言葉かけをしたり、掲示物などを活用したりする。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	65.7	66.8	61.5
	読むこと	58.4	60.9	55.5
	書くこと	65.0	60.5	50.9
観点別	知識・技能	67.6	68.1	64.1
	思考・判断・表現	55.4	55.0	45.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は、参考値より4.2ポイント高く、市の平均より1.1ポイント低い。</p> <p>●英文を聞き、その内容を理解して、英文の内容に合う絵を選ぶ問題(映画の上映時間)と、よく訪れるのかと聞かれて)適切に回答する問題の正答率は、全国平均を10ポイント近く上回るものの、市の平均を5ポイント以上下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時の帯活動として対話活動を行う事で、聞き取りの力も高める。 概要を捉えることが苦手な生徒が多いので、比較的長い英文を聞かせ概要を捉える活動を増やしていく。 聞き取り問題の解き方のコツについて触れ、ポイントを抑えて問題に取り組みやすくする。 授業は英語で行い、聞き取りの力を高める。
読むこと	<p>平均正答率は、参考値より2.9ポイント高く、市の平均より2.5ポイント低い。</p> <p>○対話文を読み、文構造や文法事項を理解(最上級)する問題は、市の平均を7ポイント上回った。</p> <p>●対話文を読み、文構造や文法事項を理解(現在完了継続用法、現在分詞)、メール文を読んで内容を理解する問題は、市の平均を9.3ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒やALTとのインタラクティブな対話活動の中で、教師は正しいモデルを示すことで、文の構造や使い方を習得させる。 語彙力定着のため、新出単語の反復練習を繰り返し行う。 現在完了や分詞といった、3年生始めの学習内容につまづく生徒が多いので、ミニテスト等で基礎学力の定着を図る。 長文読解では、答えるポイントのを見つけ方を練習することで、まとまった英文を読むことに慣れさせるとともに、苦手意識を軽減していく。
書くこと	<p>平均正答率は、参考値より14.1ポイント、市の平均を4.5ポイント上回った。</p> <p>○文の語順を理解し、正確に書く(have to, look 形容詞、交通手段のたずね方)問題は全て市の平均を6ポイント以上上回った。</p> <p>●メールを読み、その概要を捉えて英文を完成させる問題の正答率は34ポイントで、市の平均を7.2ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文法学習時、ミニ英作文を書く活動を継続して行う。英作文は個人用パソコン内アプリで共有することで、友達の作文から学び、表現の幅を広げさせる。 学習した文法事項や語彙を活用して場や条件に合う英文を書くことができるよう、さまざまなテーマで英作文を書く演習を多く取り入れる。

宇都宮市立古里中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善	学力向上推進リーダーを中心に、年間を通して教師の授業改善を目的とした校内研修を実施する。	「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」 (75.4%)
計画的な家庭学習の充実 (マイスタディ)	学習計画表を作成し、家庭学習の習慣化を図る。	「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」 (53.5%)

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

授業の中での言語活動の質の向上を図るために、根拠をもって考えたり、書いたり、伝え合ったりする活動を多く取り入れ、生徒が主役となる活動の時間を確保する。
授業で振り返り活動を行う時間を確保し、自分の考えを文章にまとめて書く習慣をつける。